

7-1 質の高い行政サービスが 持続的に提供されるまち①

◆現状における課題

【持続可能な財政基盤づくり】

- 慢性的な財源不足により基金の取り崩しに頼った予算編成が続いていることから、年度間の調整や、突発的な災害等のための財政調整基金^{※1}が減少しています。
- 投資的事業の優先度や規模を見直しを行い、市債借入額を抑制することで、類似団体^{※2}に比べて高い水準にある市債残高を縮減する必要があります。また、同じく類似団体に比べて高い水準にある実質公債費比率^{※3}を改善する必要があります。
- 限られた財源をより有効に、かつ効果的な施策へ活用するとともに、投資的事業の優先度や規模の見直しによって、後年度への財政負担を軽減するなどし、将来にわたり持続可能な財政運営を図る必要があります。

項目	H28	H29	H30	R1	R2
実質公債費比率(%)	11.8	11.3	10.6	10.1	10.0
地方債残高(千円)	62,522,968	63,119,669	61,429,845	60,433,147	59,376,281
基金残高(千円) (うち財政調整基金 ^{※4} 残高)	11,505,539 (3,300,936)	11,101,649 (3,340,746)	9,717,490 (3,029,808)	8,608,594 (3,232,893)	8,845,022 (2,863,943)

- 市税の確実な賦課、徴収に努めるとともに、遊休財産の売却や貸付、ふるさと納税等の税外収入を確保するなど新たな財源確保が課題となっています。

項目	H28	H29	H30	R1	R2
ふるさと納税額(千円)	996,393	1,584,530	1,280,764	1,885,632	2,957,227

※1 財政調整基金：突発的な災害などによる支出増や、経済の不況などによる収入減などに備えるため年度間の財源の変動に備えて積み立てるもので、財源に余裕がある年度に積み立て、突発的な災害などによる財源不足が生じた年度に活用する基金

※2 類似団体：人口規模と産業構造の組み合わせが似通った都市。本市を含む、鶴岡市、宮城県大崎市など全国の21都市

※3 実質公債費比率：一般会計だけでなく他会計も含めた借金返済に充当された一般財源の額が標準的な財政規模等に占める割合

※4 標準財政規模：自治体が通常収入されるであろう経常的一般財源の規模を示すもので、標準税収入額等に普通交付税を加算した額

◆今後の方向性と主な施策

【持続可能な財政基盤づくり】

- 予見し難い経済の変動による税収への影響や、災害への緊急的な対応等に備えるため、財政調整基金を確保し、安定した財政運営を図ります。
 - ・各年度末における財政調整基金残高を標準財政規模^{※4}の1割に相当する30億円程度とする。
- 高い水準にある市債残高と実質公債費比率の改善を図り、将来の財政負担を軽減します。
 - ・投資的事業の見直しなどにより市債借入額を5年間合計で概ね150億円とする。
- 歳出の削減に取り組みます。
 - ・成果志向に基づいた事務事業の見直し
 - ・投資的事業の見直しなどによる市債借入額の抑制
 - ・公債費の繰上償還による利子償還の圧縮
- 歳入の確保に努めます。
 - ・市税収納率の維持と税外債権収納率の向上
 - ・ふるさと納税、ガバメントクラウドファンディング、風力発電による売電収入等の税外収入の確保
 - ・公共施設を活用した歳入の確保(命名権設定、スポンサー制度、広告収入等)
 - ・国県補助金等の各種補助制度の活用

成果指標 | 年度末における財政調整基金残高 30億円を維持
市債借入額(一会計年度につき) 30億円
(2023~2027の5年間の合計額 150億円以内)

実質単年度収支の黒字化

◆関連個別計画

- 酒田市中期財政計画

7-1 質の高い行政サービスが 持続的に提供されるまち②

◆現状における課題

【効率的・効果的な行政運営の推進】

- 行政評価による事務事業の見直しは不断に行われていますが、総合計画で目指すまちの姿の実現のためには、政策の着実な推進と刻々と変わる行政課題に対応し、最少の経費で最大の効果を上げるための事務事業の見直しが必要となります。
- 今まで以上に、行政だけではなく、市民や民間事業者等との協働によるまちづくりが必要となっており、従来の事業やサービスのあり方、行政の担うべき役割について検証を行い、公民連携によるアウトソーシング等に取り組む必要があります。
- 少子高齢化、人口減少社会の急進等による多様化・複雑化した政策需要は増え続けており、常勤職員および多様な任用形態により任用された職員の役割分担だけでは対応が困難な状況です。厳しい財政状況の中にあっても多様化する行政課題を解決し、市民生活の向上を図るためには業務自体の見直しとともに、職員一人ひとりの資質を向上させ、能力を最大限に引き出すことにより、組織全体の力を向上させる必要があります。
- 手続きの申請受け付けが、紙媒体、電話、FAX、メール等と統一されておらず、その後の手続きが煩雑になっている状況であるため、業務プロセスを見直し、内部管理経費の縮減に取り組む必要があります。
- 広域的な課題について、様々な分野において近隣市町と連携した広域行政を行ってきました。今後も、新たな行政需要への対応や、防災や医療、福祉、観光などの分野で他団体と連携し、行政サービスや地域の魅力を向上させる必要があります。

【公共施設の適正化】

- 高度経済成長期に集中的に整備してきた市保有インフラ施設（橋りょう、公営住宅、水道および下水道などの生活インフラ等）の多くが老朽化するため、更新が必要となる施設が急増します。
- 今後、財政状況がますます厳しくなる中で、公共施設は老朽化により維持や改修に多額の財源を必要とするため、施設の利用促進を図りその財源を確保するとともに、利用状況などに応じて統廃合や廃止も必要となってきます。

項目	2016	2017	2018
有形固定資産減価償却率（%）	58.3	59.5	61.2
将来世代負担比率（%）	22.3	23.2	23.2

・有形固定資産減価償却率＝減価償却累計額／（有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額）
 ・将来世代負担比率＝地方債残高／固定資産合計

◆今後の方向性と主な施策

【効率的・効果的な行政運営の推進】

- 総合計画の成果指標の達成に貢献しているかという観点から事務事業の見直しを行い、限られた行政資源を効率的に活用します。
 - ・事務事業の総合計画への貢献度等を評価し、事業改善、取捨選択を行う行政評価の実施
 - ・限られた財源の中で、行政評価を踏まえた優先順位付けによる予算編成の実施
- 民間事業者のアイデア、資金、ノウハウ等を活用し、本市と対等なパートナーとしてお互いの強みを生かした公民連携事業の推進により、市民サービスの向上や業務の効率化を持続的に行うとともに、地域と経済の活性化を図ります。
 - ・「民間事業者提案制度」の積極的な活用
 - ・「酒田市連携協定等の推進に関する実施方針」の積極的な活用
- 組織全体の力を向上させるため、市職員1人ひとりの資質向上に取り組めます。
 - ・人材育成基本方針を踏まえた職員の育成
 - ・新たな行政課題へ対応し、全庁横断的に業務を推進できる組織機構の見直し
 - ・限られた資源（財源・人材・時間等）を使い、市民のために成果を達成する効率的で効果的な働き方（スマートワーク※1）の推進、及び業務改善運動の継続的な実施
- 時間・財源・人材等の制約のもと、市民サービスの質を上げるため、デジタル技術を活用した業務の効率化を図ります。
 - ・行政手続きのオンライン化等を推進し、デジタル統一することによる業務の効率化
 - ・RPA※1やAI-OCR※2等のDXツールの活用による業務プロセスの見直し・自動化・効率化の推進
 - ・DX人材育成のための研修実施
 - ・文書管理システムの導入
- 新たな行政需要への対応や、広域的処理が可能な事業について検討し、積極的に取り組みます。
 - ・庄内広域水道用水供給事業（山形県）と受水団体（酒田市、鶴岡市、庄内町）による垂直・水平統合を目指した取り組み（再掲）

【公共施設の適正化】

- インフラについて、人口や財政状況、施設の重要度等を踏まえ、計画的に維持管理・修繕・更新を行います。
 - ・需要にあわせた統廃合、更新または施設能力の縮小（ダウンサイジング）
- 公共施設の適正化を進めるとともに、効率的な維持管理や長寿命化により、将来的な財政負担の軽減を図ります。
 - ・公共施設適正化基本計画に基づく公共施設の統廃合の実施
 - ・適切な維持管理によるライフサイクルコストの縮減
 - ・未利用資産の売却・利活用

成果指標 | 公共施設の延床面積（2020）492,315㎡ → （2027）467,000㎡

◆関連個別計画

- 酒田市民連携実施方針
- 酒田市民間事業者提案制度
- 酒田市デジタル変革戦略
- 酒田市連携協定等の推進に関する実施方針
- 酒田市人材育成基本方針
- 酒田市公共施設適正化基本計画

※1 スマートワーク：一般的にスマートワークとは、ICTを活用した、場所や時間に縛られない柔軟な働き方をさす。本市が目指すスマートワークは、限られた資源（財源、人材、時間等）を使って、市民のために成果を達成する効率的で効果的な働き方を指す。

※2 RPA：事務作業の自動化。「Robotic Process Automation」の略語。

※3 AI-OCR：AIを活用し紙面・画像に記載された文字・文章をテキストデータへ変換するもの。